

ひがしいず 議会だより

2025
No.321

10月号

みんなが集まれる場所を！
グリーン・フォレスト・フェスティバル
P12にて紹介

- 適切な運営をチェック・・・・・・・・・・・・・2～3
給食費を一時的に無償化に・・・・・・・・・・・・・4～5
一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6～9
かがやくまちのひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

議会HP



決算審査
特別委員会

全会一致で決算を認定 事業の執行状況と適切な運営をチェック



第3回定例会で提出された令和6年度一般会計・特別会計の決算は、議会選出の監査委員を除く11名の議員で構成する決算審査特別委員会に付託し、3日間にわたり審査した結果、以下の意見を付し決算を認定しました。

提言1 各種アドバイザーの活用について



外部の知見を知り、町づくりを活性化させる上で有効な取り組みである。しかし、時期や人材の選定を誤ると効果はなく無用の仕事を増やすことにつながりかねない。アドバイザーの評価・選定と効果や導入の時期、担当課の業務量など総合的に判断する事を求める。

提言4 稲取温泉场景観整備業務委託について



事業名は、稲取温泉場の景観整備を行うための業務委託であるが、成果品では、「町と稲取のコンセプトと3つのテーマ」の中に「温泉場テーマ」をまとめただけの報告だった。これでは、契約・仕様書と成果品に乖離がある。町長もメンバーとして入っており、町長には猛省を促すものである。

提言2 ノッカルひがしいずについて

町民ボランティアの運転者確保に課題があり、現行は13名。そのため、勤務中など役場職員の協力で事業が運営されている。一つの方法に拘ることなく、利用者とボランティアの運転者にも喜ばれる事業を目指して、課題を解決するように検討されたい。



提言5 九份など台湾関連予算について

予算は熱川温泉の活性化イベントと観光交流経費がバラバラに計上されて事業の実態が把握できない。台湾関連予算の総額は、10,203,166円であった。事業の性格から、熱川九份イベント関連費用と台湾観光交流経費は、分かりやすく予算計上をすることを求める。

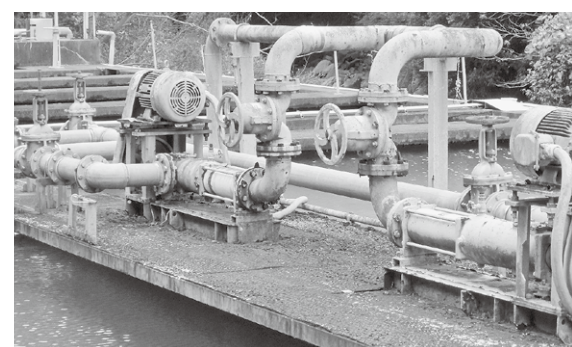


提言3 ごみ堆肥化業務委託について



契約書に不明確な部分があり事業が進んでいない。現在は顧問弁護士が入り変更契約の協議中である。町は、全く新しい事業の採用に際して、経験や対応できる知識などない中で堆肥化事業の導入ありきで取り組みを進めてきた結果である。議会も本事業を十分にチェックする役割を果せておらず、猛省すべき案件である。

提言6 水道料の改定について



浄水場の老朽化、低い水道管の耐震率から水道施設の更新は待ったなしの状況である。水道料金の見直しは、必須の課題となっている。料金改定に対する現状と課題を画像なども使い、町民に知らせる特別な努力・取り組みを進められたい。

9月
定例会

一般会計補正予算ほかを可決

物価高騰に伴い給 食費一時的に無償に

定例会の
あらまし

令和7年第3回定例会は9月10日～30日までの21日間の日程で開催し、令和6年度一般会計歳入歳出決算認定ほか、補正予算6件、条例改正8件を含む計25件が提出され、審議の結果すべて原案どおり可決しました。

Pickup ① 地域づくりアドバイザー謝礼

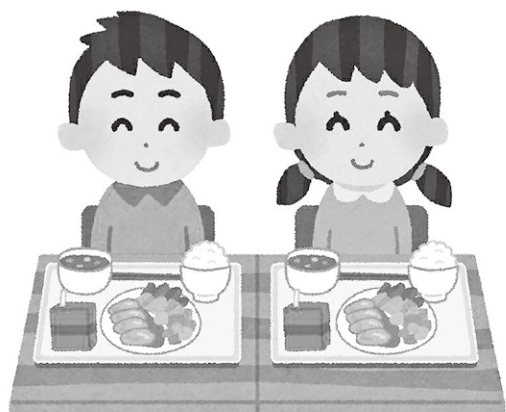
89万円



西垣 敦子氏
町のDX推進、防災マニュアル作成
森田 創氏
グリーンスローモビリティ実証実験
二宮 桃子氏
学校統合に関して町の事業を進めるための
アドバイザーへの謝礼

Pickup ② 給食費助成費用

1,350万円



物価高騰による子育て世帯の負担を軽減するため令和7年12月から令和8年3月までの4か月分の給食費を無償にします。

Pickup ③ 熱川温泉場張出床版撤去計画設計業務委託

700万円



老朽化により補修活用が困難なため撤去し、車両通行などはその後に検討します。

Pickup ④ 児童生徒学習用パソコン480台購入

2,130万円



国の補助金を受けて静岡県として一括購入したことにより、費用を抑えることができました。

議案第56号東伊豆町水道事業会計補正予算(第2号)に対する附帯決議

1. 新浄水場建設候補地購入に関する予算の執行については、今後の議会への事前説明及び同意を得た上でおこなうこと。
2. 新浄水場の建設は、地元住民の好意と協力があってはじめて円滑に進められるものと理解している。事業遂行にあたっては住民への説明の機会を十分に設け、理解不足による軋轢等を生まないように、しっかりと準備を行うこと。



附帯決議書



西塚 孝男 議員



Q スマホ片手に歩く外国人観光客への対応は

A キャリーバッグの預り等、安全に歩ける方策を検討

Q 外国人観光客が多く、大きなキャリーバックを引きスマホを見ながらホテルを検索している危険だという声があるが、多言語の案内看板を考えたらどうか。

A 色々な国の人に来ており、案内看板に多言語対応は難しい。そこでまだ検討段階ではあるが、駅でチェックインを行い荷物を預けられるような取り組みができないか関係者と協議している。



文化公園前の交差点

Q 重い荷物がないか関係者と協議したい。

A 現地確認の上、可能な対応について関係者と協議したい。

Q 公共交通の中心になるノッカルひがしいずのドライバー登録状況は。

A 登録ドライバーは42名で内役場職員は29名だ。将来的には一般ドライバーを増やし役場職員の比率を減らしていきたい。

Q ドライバーの運行回数に隔たりはあるか。

A 一般ドライバー1名に約6割が集中しており、運行の安定性の観点から課題がある。

Q 現行の利用料はあまりにも安価である。一般ドライバーを増やすためにも保険料支援も含め改善を図るべきではないか。

A 今年度の利用は大幅増となっていてサービスへの期待の大きさの表れと認識。保険料はドライバー1人1回1,800円の負担で制度継続の観点で厳しい。利用料は早ければ新年度から見直しを行って行ければと考えている。

Q 街の中を大きなワンボックスカーが道路の真ん中を走り、カーブなどでヒヤヒヤする場面がある。そこでカーブなどに白色中央線を引くなどの対応ができないか。

A 国が示す基準により幅員が5.5Mなければ中央線は引くことができない。又路が幅が広がっていないで見分けがわからない。



稲葉 義仁 議員



Q 道路沿いの危険木の伐採に補助制度を

A 危険木の定義や相談窓口等の制度設計とあわせ検討

Q 道路沿いの民有地で、倒れた場合に危険を及ぼす枯れ木への対応についての相談はどの程度あるか。またその対応は。

A 支障木全般の相談は令和6年度14件、令和7年度15件。そのうち倒木については令和6年度9件、令和7年度11件が該当。対応については、現地確認の上現状を所有者に通知し、伐採等の対応を依頼する形となる。

Q 倒木が発生し交通に支障をきたした場合は。

A 道路管理者として早急に撤去、安全な通行が可能



近年増えている倒木

Q 道路を常に安全に保つ観点から、リスクが高い枯れ木等の伐採について補助制度を設けることは検討できないか。

A 全国的に見ると補助制度を設けている市町は存在するが、原則的には所有者が対応すべきもの。ただし事案が増えているのも事実であるので、被害を予防し公共の安全を守ることで、また財政面も考慮しながら慎重にでも検討を進めた方がいいのかなと思う。

Q 地域の安全にご配慮いただいている区の役員さん達からの相談もあると聞いた。そういった活動を力づける意味でも是非ご検討いただきたい。

A 行政に何かを伝えたら何かが返ってくるという雰囲気づくり、コミュニケーションのとり方も含め、新しい取り組みができるか検討したい。

Q いつまでに公共交通の全体像をつくりあげるのか

A 現状まだ最終的な全体像を示す段階にない



利用者から感謝の声が聞かれるノッカルひがしいず

Q ノッカルひがしいずをはじめ様々な実証実験を行っているが、いつまでに全体像を作りあげるのか。

A まだ最終的な全体像を示す段階にないが公共ライドシェアがその中心。これを核に夜間のタクシーとの連携など利便性を高めた。さらにグリーンスローモビリティ等も組み合わせ整備していく。これらの将来像は実証実験の成果に基づき構築したいと考えており、取り組みが可能かを判断するためにはもう少し時間がかかるとの認識だ。

Q 今年度の利用は大幅増となっていてサービスへの期待の大きさの表れと認識。保険料はドライバー1人1回1,800円の負担で制度継続の観点で厳しい。利用料は早ければ新年度から見直しを行って行ければと考えている。



楠山 節雄 議員



Q 堆肥化のプロジェクトの進捗は

A 契約見直しが未了のため、一時停止している



導入した堆肥化の機械

Q 堆肥化プロジェクトの進捗と課題は。

A 令和6年1月に委託契約を結びスタート。機械設置は半導体不足等で遅れ、同年7月に完了。その後、消防設備整備を経て稼働を開始し、令和7年度は暫定的に稼働を行い、約20トンの食品残渣を処理し18トンの堆肥を製造した。ただし、旅館・ホテルとの収集運搬費用の負担や、事業者との契約見直し未了のため、一時停止している。契約改訂は年内の完成を目指している。

Q 今後のブランディング戦略は。

A 堆肥化と有機栽培を組み合わせた循環型観光地を実現し、国内外にPRすることが狙い。SDGsに対応した先進事例として全国に発信し、視察の受け入れや観光振興につなげていきたい。

Q 参加地区の拡大は。

A 稲取地区から開始し、安定運用後に全町へ拡大していきたい。



笠井 政明 議員



Q 農業法人と有機野菜栽培の計画は。

A 町は株式会社グリーンナードと包括連携協定を締結し、堆肥を活用した有機栽培やオーガニックビレッジ登録を進める計画。旅館から出る残渣を堆肥化し、その堆肥で育てた野菜を観光客に提供する循環型モデルを想定している。ただし堆肥化が停滞しているため、有機野菜栽培はまだ本格的に始まっていない。



鈴木 伸和 議員



Q ゴミ堆肥化事業の現状は

A 契約書の不備等を見直し中で事業は一時中断

Q 現在までの進行状況と業務実績は。

A 初年度は1,000kgのごみを受入れ800kgの堆肥を製造。今年度は7月までに20tのごみを受入れ18tの堆肥を製造。

Q ごみ堆肥化事業についての進捗は。

A 契約書の不備やその他の問題点を見直し中で、事業は一時中断している。

Q この事業を町のプランディング戦力とした理由は何か。

A 町全体が一体となって環境対策やSDGsに取り



組むことで、町民ひとりひとりの意識を高め町への愛着や誇りを育み、循環型観光地として国内外へアピールするため。

Q 委託契約中の企業を特名随意契約の相手先として選択した理由は何か。

A 地域の課題解決や環境負荷の軽減等を目的とした包括連携協定を締結中で、一般的な委託契約の範疇を超えた共同体制が確立しており他の事業者が代替が難しいと判断した。

Q 令和6年2月に結ばれた包括連携協定とは何か。

A 廃棄物のリサイクル原料化推進に関する、有機栽培推進に関する、循環型まちづくりPR戦略に関する、地場産品出口戦略に関する、有事の際の食料確保に関する、以上により単なるごみ問題の解決策にとどまらず、当町の将来の発展に寄与するものである。



山田 豪彦 議員



Q 7/30の津波警報で見た課題は

A 帰宅困難者への対応の手順の見直し等がある

Q 帰宅困難者（観光客）への対応は。

A 旅館組合や観光協会との協議に加え、より現実的な対応を図る為に、近隣自治体や交通事業者との検討をおこなっていききたい。

Q 防災訓練を自主防だけでなく、各種団体等と実施するお考えは。

A 防災訓練を自主防だけでなく、各種団体等と実施するお考えは。



日頃の準備が大切

A 当町においては6月に土砂災害全国防災訓練、9月に総合防災訓練、12月に地域防災訓練、3月に津波避難訓練の年間4回の訓練を実施。9月27日に予定されている総合防災訓練では消防団だけでなく、駿東伊豆消防本部、東伊豆消防署、陸上自衛隊、静岡県看護協会賀茂地区支部に協力依頼をして、講習も行った。今後は陸上・海上自衛隊や日本港湾空港建設協会静岡支部との防災訓練も計画している。

Q 避難所での職員を含めた熱中症対策は。

A 今回避難所で受付を担当した職員はエアコンのない環境での対応だったため、今後は受付場所も含め全ての箇所、これまで以上の水分補給の呼びかけやエアコンのある施設の設置、熱中症対策の為の資機材の準備など可能な限り暑さ対策を講じていきたい。

Q 高齢者・介護の声を聞いたか

A 話し合う場を設けるため現在調整中である



ケアマネージャーから意見を聞く文教厚生常任委員会

Q 「高齢者や福祉の現場の声を町長は聞くべき」との提言にどう対応されたのか。

A 広く現場の声を聞くことは大変重要と感じており、担当課に指示を出し、介護支援専門員との話し合いの場を設けるべく調整しているところ。

Q 「自分の健康は自分で守るから、健康づくりはみんなの課題」という提言の受け止めは。

A 人口減少や高齢化など多様化する中で、個人の努

Q 介護事業所への支援についての対応は。

A 介護職員の資質向上および人材確保に向けた補助金制度を整備した。今後も国県の方角を見守りつつ、対応を検討していきたい。



山田 直志 議員



Q 役場立体駐車場の避難タワー的な役割は

A 避難のための施設ではなく第一の選択肢として適切ではない



こらっしえ建設前に修繕された駐車場の外階段

Q 港周辺の観光客を避難させるため外階段に避難看板を設置する考えは。

A 近隣の高台への避難が最優先で、そのための避難誘導標識の設置等の対策が重要。外階段で避難すること自体は排除しないが、周辺は埋め立て造成されたエリアでもあり液化化のリスクについて認識しておく必要がある。

Q 7月30日にカムチャツカ半島を震源とした地震が発生し津波警報が発表されたが町の対応は。

A 同報無線や情報配信メール、ラインによって避難を呼

Q 出張中のため電話で現状確認を行い、町の業務継続計画に基づき副町長を代理として対応に当たるよう指示を行った。帰町後は、駅に滞留する観光客を速やかに移送すべく河津町にも応援を依頼し、中型バスで修善寺駅まで送った。

A 役場本庁舎は津波浸水想定区域に位置するが、通常の業務を行っていたようだ。避難の必要はなかったか。

A 現在は災害対策本部を庁舎外に設置することについて検討している段階のため、職員の避難については体制が整っていない。保健福祉センターの職員については図書館に避難させた。

Q 発表時、町長はどこにいてどのような指示を出したか。

A 出張中のため電話で現状確認を行い、町の業務継続計画に基づき副町長を代理として対応に当たるよう指示を行った。帰町後は、駅に滞留する観光客を速やかに移送すべく河津町にも応援を依頼し、中型バスで修善寺駅まで送った。



須佐 衛 議員



水道事業に関する調査報告書を提出

文教厚生常任委員会では、昨年の能登半島地震で大きな被害を出し、復旧復興の足枷となった水道事業について、所管事務調査を行いました。

現状と課題

- ①築60年を超える浄水場や配水タンクの老朽化が進んでいる。
 - ②水道管の改修率は49.39%、耐震化率は9.5%（令和5年度）約5割の水道管は法定耐用年数を超えている。
 - ③25%の水を漏水等で失っている。
 - ④利益は1600万円程度であり、施設の改修等の費用が算出できない。
- 令和5年度の施設更新率は0%である。



報告書はコチラ

地震などの災害に強い水道施設にするためには数十億円以上の工事費用が必要になるため水道料金の見直しが必要となることから次のような提言をまとめました。

- 提言1 AIなどの新技術を活用して効率的な水道管の維持改修を行なうこと。
- 提言2 国・県からの支援が必要であること。
- 提言3 「資金収支方式」の検討もすること。
- 提言4 水道事業の専門的な人材の育成、指定工事事業者の確保も課題である。

議会に提出された陳情書及び嘆願書を委員会で調査

議会では、提出された「東伊豆町小中学校及び県立稲取高校の統合に関する陳情書」及び340筆の署名が添付された「東伊豆町小中学校及び稲取高校の統合に関する嘆願書」を文教厚生常任委員会に付託して審査をすることにしました。

付託を受けて開かれた文教厚生常任委員会では、陳情者等の意見を聞くとともに、保護者など関係者の意見を聞くことを予定しています。

第一弾として、保護者のみなさんに、学校統合計画の浸透状況や計画に対する意見や不安・疑問などの声を、学校、認定こども園、幼稚園、保健センターなどを通じて伺う予定です。保護者のみなさんにはご理解ご協力をお願いします。

第3回定例会の議案と各議員の賛否

○ 賛成 × 反対
※議長は採決に加わらない

議案名		採決結果	山田豪彦	鈴木伸和	楠山節雄	笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	定居利子	山田直志
条例改正														
議案第43号	職員駐車場使用料徴収条例制定	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第44号	観光振興基金条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第45号	町職員の育児休業等に関する条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第46号	町庁舎駐車場の設置、管理に関する条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第47号	選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第48号	印鑑条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第49号	消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第50号	水道事業給水条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
補正予算														
議案第51号	財産の取得について	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第52号	令和7年度一般会計補正予算（第2号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第53号	令和7年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第54号	令和7年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第55号	令和7年度介護保険特別会計補正予算（第1号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第56号	令和7年度水道事業会計補正予算（第2号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第65号	令和7年度一般会計補正予算（第3号）	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
決算審査														
議案第57号	令和6年度一般会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第58号	令和6年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第59号	令和6年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第60号	令和6年度介護保険特別会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第61号	令和6年度稲取財産区特別会計歳入歳出決算認	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第62号	令和6年度風力発電事業特別会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第63号	令和6年度幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計歳入歳出決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
議案第64号	令和6年度水道事業会計決算認定	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
意見書・発議														
意見書第1号	水道施設の耐震化等の整備に対する財政支援を求める意見書	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○
発議第1号	議案56号令和7年度水道事業会計補正予算（第2号）に対する附帯決議	可決（10：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	欠	○	○

かがやく まちのひと

Vol.23

今回は、10周年を迎えた町内最大級のフリーマーケット「グリーン・フォレスト・フェスティバル」の主催団体代表 上嶋玲子さんにお話を伺ってきました。



代表の上嶋玲子さん

イベント開催のきっかけは。

仲の良い友達と集まり話す中で「みんなが集まれる場所をつくりたい」と思うようになったことがきっかけです。最初は自分が経営する「マナスカフェ」の店先で開催したんですが、「俺も、私も手伝う」と仲間達が集まってくれて大変盛り上がりました。その後、クロスカントリーコース内に場所を移し回数を重ねる中で現在の形になりました。



会場入口ゲート

今年6月29日に開催し、晴天にも恵まれ多くの家族連れなどで賑わっていました。今回もツリーハウス前で、ピザや串焼き、チョコバナナなどの飲食や衣類、アクセサリーなど約40の出店があり、買い物や食歩きの他にも、大型エア滑り台や大道芸などで、盛り上がりがありました。各店舗の出店料は、ビンゴゲームや宝探しなどの景品に使い、来てくれた子供達に還元しています。楽しそうな元気な声が響き渡っていました。



家族連れで賑わう会場

今年のイベントはどうでしたか。

「これからの目標は。他地域でも同様のイベントが多くなってきたこともあるので、「グリーン・フォレスト・フェスティバル」をさらに特別感を持たせて盛り上げたいですね。また「港の朝市」や「こらっしえ」と協力してビアガーデン、ナイトマーケットなど「フードフェス」の開催にも挑んでみたいと思っています。



多くの飲食店が出店

編集後記

ここ数年異常気象が頻繁に起こっている。連日の猛暑日、今年になって酷暑日という表現もでてきた。各地では大雨による甚大な被害が発生、県内でも牧之原市、伊東市で竜巻による被害もあった。ひとむかし前は、「災害は忘れた頃にやってくる」と注意喚起したが、今ではいつやってくるかわからない。食料や懐中電灯、常備薬等、自分の身を守るよう準備をしておくことが重要である。秋の気配がする頃は、城東地区のお祭りが続く。地域を守る大切な行事であり、皆で楽しみ盛りあがっていたきたい。地域の元気を町の活力に。
 (山田豪)

議会広報編集委員会

委員長	稲葉義仁
副委員長	笠井政明
委員	山田豪彦
委員	鈴木伸和
委員	栗原京子
委員	山田直志